



# Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ウィズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA 35-16 DAIKANTYO HIGASIKU NAGOYA 460-0002 JAPAN

国際会長主題 「全ての世界に出て行こう」  
 アジア会長主題 「未来を始めよう、いますぐに」  
 西日本区理事主題 「志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう」  
 中部部長主題 「長所を活かして生き生きと」  
 クラブ会長主題 「若い世代にウィズを広めよう」



がんばれ日本 がんばるウィズ

2014年2月号

— < 今月の聖句 > —

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは、永遠に存在するからです。

コリントの信徒への手紙 5章 18節

名古屋グランパスホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~ysmen/>

## 2014年2月例会他ご案内

### ◎第一例会

と き : 2月4日 (火)  
 と ころ : 名古屋YMCA  
 時 間 : 19:00~  
 ドライバー : 信田君  
 卓話「浦上キリシタン流配事件と  
 金沢市卯辰山出土人骨」  
 講師: 平口哲夫 (中部部長 金沢犀川クラブ)  
 平口中部部長のクラブ訪問です。  
 卓話の概要、講師のプロフィールは別紙をご  
 参照ください。

### ◎第二例会

と き : 2月25日 (火)  
 と ころ : 名古屋YMCA  
 時 間 : 19:00~

### ◎京都東稜クラブ10周年記念例会

と き : 2月16日 (日)  
 場 所 : 京都メルパルク  
 時 間 : 16時30分~  
 会 費 : 10,000円 (予定)

### ◎次期会長・主査研修会

と き : 3月8日 (土) ~ 9日 (日)  
 場 所 : 新大阪チサンホテル

### ◎中部評議会

と き : 3月21日 (祝金)  
 場 所 : 名古屋YMCA3階会議室  
 時 間 : 13:00~  
 ※例年同日開催のYYフォーラムは延期

1	例 会 出 席 状 況				B Fポイント		クラブファンド (1月)	
月 例 会	在 席 者	14名	第 1 例 会	8名	当 月 ・ 切 手		ニコBOX ノート	
	例会出席者	9名	第 2 例 会	6名	当 月 ・ 現 金		感 謝 ファンド	
	当月出席率	64%	そ の 他	7名	累 計		累 計	

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”  
 =強い義務感を持つ。義務はすべての権利を伴う=

## 第一例会レポート



日 時：2014年1月14日（火）  
場 所：名古屋YMCA  
出席者：坂野、阿部、荒川、高田、早川、服部、松原、吉田、服部メネ、コメ、

卓話「新型出生前診断の倫理的考察」  
名古屋大学、愛知医科大学非常勤講師 齋藤征子氏

服部庄三

遺伝子の研究が進み、生命のしくみが徐々に明らかになり、どの病気になりやすい体質かも分かる時代になってきました。海外では乳がんを恐れて、乳房を切除した俳優が話題となっています。現在では出産前に染色体を調べることにより、簡単に胎児の染色体異常を診断することができます。しかしそのことは「生命の選択」につながるという批判もあります。自分自身ががんの発症を恐れて乳房を切除するのと違い、中絶という行為が伴うのです。倫理的観点からこの診断についてお話しをしていただきました。

染色体異常、主にダウン症の検査をすることは、陽性の結果を受けて多数の両親が人工妊娠中絶を選択することと相まって、ダウン症の人々に、その生はその疾患を有しない人の生よりも価値が低いと社会的に宣言することにならないのか。現在ダウン症を有しながら生きる人の価値は、それを有しない人と何ら変わらないが、胎児の時点においてその価値が異なるということは正当化しうるものであろうか。と問題提起されました。

そして結論として、出生前診断が良き生を尊重するための検査であること。胎児の疾患が極めて重篤かつ困難な場合で、両親の自らの人生を自ら決定する権利と相反する場合には、胎児自身と両親の良き生のために産まない選択を提示する。そして困難とともに生きる尊敬すべき選択をする場合には、より早い段階からその障害について知識を得るきっかけを与える。そしてどのような生がより良き生かを、常に問い続ける努力が必要となるだろう。と結ばれました。

私たちが次の世代を送り出す者として、問い続けなければならないと思います。



## 第二例会レポート

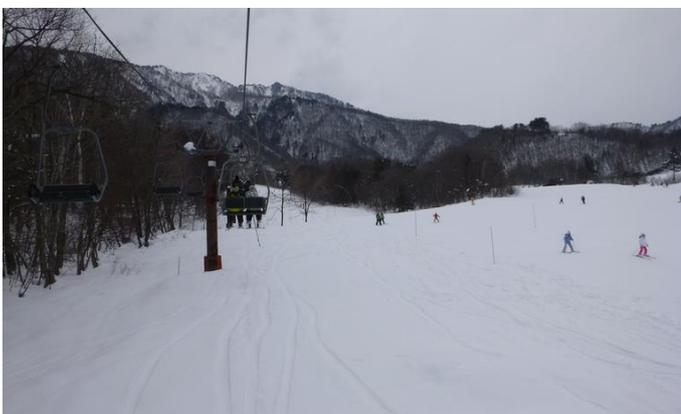
日 時：2014年1月28日（火）  
場 所：名古屋YMCA  
出席者：坂野、吉田、坂本、松原、服部、早川

### 議案

1. 名古屋YMCAキャンプ事業担当中井スタッフからのお知らせ
  - ・日和田キャンプ場のリニューアル完成 2015年秋までに計画中
  - ・キャンプ委員会の発足→リニューアル方法、プログラム等の検討
2. 2/4（火）第一例会 ドライバー信田君
  - ・平口中部部長訪問及び卓話
  - ・総会（次期役員決定）次期会長 松原君
3. 2/16（日）京都東稜クラブ10周年記念例会
  - ・京都メルパルク 16時30分～
  - 振込1/31迄クラブ単位 お祝い金必要？
  - 東北支援物品販売 吉田君
  - 出席予定 坂野、荒川、荒川メネ、早川、松原、松原メネ、服部、吉田、高田、下村 10名
4. 4月12日（土）～13（日）東北訪問の行程の件 ドライバー荒川君
  - ・陸前高田訪問
  - ・前回の訪問地を回る
  - 参加予定 坂野、阿部、阿部メネ、吉田、吉田メネ、荒川、早川、松原、松原メネ、高田、下村、柴田 12名
5. その他
  - ・クランパスのポロシャツ XS～XL 刺繍代込@2,000円（税別）3L@2,200円（税別）
  - ・3/21（祝）中部評議会 YYフォーラムは同時開催しない→インターアクトが東北に行く壮行会開催を検討中
  - ・2/末までにグランパスロッカーの片付け

- ・ Yサユースコンボケーション 台北  
2016-2017 世界大会 南山クラブ小林氏提案
- ・ 3/8～3/9 次期会長研修会 大阪チサンホテル13時
- ・ 4/22(火)～4/27(日) ワイズメンズクラブ障害者アート展 名古屋市民ギャラリー栄 名古屋クラブ谷川 受付スタッフの要請あり
- ・ 3/11(火) 東日本震災犠牲者追悼式 14時久屋公園 実行委員 吉田君
- ・ 6/14～6/15の西日本区大会の申込書到着

## 2014 爺ヶ岳ファミリースキー



日 時：2014年1月18日(土)～19日(日)  
場 所：爺ヶ岳スキー場・マルハンロッジ  
出席者：荒川+メネ+コメファミリー、高田+メネ、吉田+メネ、松原+メネ、  
ゲスト：秋重、藤田夫妻、南里親子、三科親子(京都東稜クラブ)



爺ヶ岳スキーのおもいで・・・

松原 誠

スキーをしたのは何十年ぶりかのような気がする。実際は覚えていないが・・・

いづれにしても爺ヶ岳では初めてシュプールを描いた。足のけがは癒たが体力と技術に自信がなく不安であったが、意外と滑れたので、白銀の世界と戯れ楽しいひと時を過ごすことができた。スキーは楽し!

気持ち良かった。HAPPY!

実はこんな楽しいひと時の陰には、スキー場へ向かう道中での悲惨な出来事があったのです。

とほほ・・・

僕が悪いんじゃない。相手が100%悪くてもおかしくない事故にあったのだ。我が愛車ハリアーのフロントNo.プレートがセンターラインでコロコロンって・・・あっちゃ～! 急に出てくるか??? キンちゃんとお秋重さんのおかげで何とかNo.プレートを括り付け、1時間遅れただけで大町温泉のそば所わっばやに到着。どんちゃん騒ぎ開始です。好香と2人だったら、しょげて帰っていたかも?

スキー場にいる間はそのことも話題提供になり、より楽しみました。ともかく誰も怪我なくてよかったです。しかし帰ったら現実が待っていた。まだすべて解決していません。誰かどうにかしてください～。さけび!!



別の角度から覗いてみると

荒川恭次

このツアーも毎年1月第三週が定着し、同泊のSO愛知チーム40名に対しグランパスチーム19名とマルハンロッジスタッフはさぞかし大変だったことだろうと思います。私は部屋割りに悩みました。

グランパスチームは例年になくワイズ関係一色で、ファミリー・会友はいうに及ばず京都からDBCクラブの京都東稜クラブの三科ファミリーに遠路ご参加いただきました。ファミリー単独部屋でなくスマミセンでした。

グレンデは例年通りガラガラの雪質最高のベストコンディションでした。特に白馬の大会に地元小学生チームが遠征したのが効いていました。しかし体力の衰えは隠せず、スキー板・靴・ストックはGG仕様の超軽量型に昨シーズンより変更(2013年2月ブリテンゴ参照)したことで、何とかマゴメットの体力に対抗しています。

名古屋の喧騒を離れ白一色の世界に身を置けば、寒さは身にしみますが、スキーのスピード感と頬を撫でる極寒の空気、その対象にある熱い露店風呂は、

日頃のもやもやを吹き飛ばすにはベストセレクトか  
 と思います。この醍醐味をまたみなさんと共有した  
 いものです。旨い蕎麦も待ってます。来年もぜひ行  
 きましょう。楽しみ方いろいろ、温泉だけ参加大歡  
 迎です。風邪キャンセルの坂口君・信田君。来年は  
 釣りオプション復活願います。



## 中部EMCセミナー



日 時 : 2014年1月18日(土)  
 場 所 : 名古屋YMCA  
 出席者 : 服部、早川

早川政人

中部EMC200に向けて仲間を増やそうというテ  
 ーマで中部部長平ロウイズの開会点鐘で、名古屋Y  
 MCA 3階で始まり、次期中部部長四日市クラブ大  
 西ワイズの司会で、事例報告を四日市クラブ若松ワ  
 イズ・名古屋クラブ木元ワイズ・東海クラブ長谷川  
 ワイズが各クラブのEMC活動について事例報告が有  
 りました。

我々のクラブでもEMCについて参考にしたい事が  
 多々あります。機会があれば是非検討したいと思  
 いました。

第三部に移りグループに分かれて協議になり、各  
 クラブでの活動経験事例を話し合い、今後の活動の  
 参考にする結果発表をしました。各ワイズのEMCに  
 対する熱い意気込みを感じます。中部EMC200が  
 益々成功する様に努力を決意しました。

## 西日本区アジアユースコンボケーション (AYC) 報告会に参加して



下村明子

1月25日(土)午後1時よりホテルクライト  
 新大阪にて、昨年8月にフィリピンで開催されたア  
 ジアユースコンボケーション (AYC) の報告会が  
 開催され、西日本区12名の参加ユースのうちの9  
 名と応援で駆けつけてくれた東日本区の参加ユース  
 1名の計10名の若者がすばらしい報告を行ないま  
 した。参加ユースは2か月前から仕事・学業の合間  
 を縫って報告会のための企画準備を行ない、当日朝  
 のリハーサルを経て本番に臨みました。私は楽しみ  
 の余り、前日はなかなか寝付くことができません  
 でした。

前半はプロジェクターを使ったAYCの概要説明  
 のあと、インタビュー形式でAYCへ参加した感想  
 が語られ、そして後半は楽しかったAYCプログラ  
 ムの一部のとアジアユース代表 (AYR) に選ば  
 れた広島YMCA職員・沖麻実さんのスピーチが再現  
 されました。15歳で参加した町田美咲さん(熊  
 本にしクラブコメット)の初々しい挨拶で報告会が  
 スタート、複数回参加のベテラン姫路Y-3の前田梨  
 茶さん、山田麻里さんのリードでスムーズに前半戦  
 は進んでいきます。



後半はAPナイトの再現、ユースが当時の衣装で  
 ダンスを披露したあと会場のワイズメンも巻き込  
 んで一緒にダンスパーティー、会場が和やかなム  
 ードに包まれたところでAYRに選ばれた沖さんの希望

と若さがあふれる堂々たるスピーチが再現されました。

そして涙を誘うクライマックス。会場の明かりを落としキャンドルの形をしたライトを手にしたユースが順番に「AYCとは〇〇です。」と、自分にとってのAYCをひとことで表現。それぞれの思いが伝わり涙するワイズメンもちらほら。

そしてそのあと、思いもよらないサプライズが!!!突然15歳の美咲さんが私を席まで呼びに来てくれ、彼女に導かれ私は何もわからないまま会場の前へ進むと、麻実さんが手紙を読み始めました。私への感謝の手紙だったのです。彼女が手紙を読み終えると花束と写真(関空への出迎えの際皆で記念撮影したものとAYC参加者全員の写真)がどこからとなく出てきて、それらを私に手渡してくれました。もう嬉しくて嬉しくて、会場でポロポロと涙してしまいました。後から聞くとユース達は「下村さんをぜったい泣かせてやる!」と演出を考えていたとのこと。くやしいなあ!完全にやられました!

この報告会、企画はすべてユースの手によるもので、中高年ワイズメンは若者のユニークな発想に驚かされていました。特に報告会の場でAYCの一部を再現してしまうなんて、思いつきもしませんでした。「最近の若者は・・・」と世間ではよく否定される場面に遭遇しますが、これは我々年長者も反省すべきところではないかと感じます。若者は活動の場を提供することで我々が思っているよりもはるかに素晴らしい働きをしてくれるのです。それも熱意を込めて懸命に。若者を否定する前に果たして我々は若者の活躍できる場を提供できているだろうか・・・ユースと関わることで改めて考えさせられたことです。そして今回参加したユースと出会えたことはワイズメンとしての誇り、嬉しく思います。

最後に、2年に一度のAYC、今回は来年、日本(京都)での開催です。AYRの沖麻実さんを中心に盛り上げよう!ユースのみんな!私も今から参加を楽しみに応援しています。

## YMCAたより

連絡主事 坂本清則

1月24日から1月27日にかけて、姉妹YMCAの一つである中国・南京YMCAより2名のスタッフが名古屋を訪問し滞在しました。50歳台の副総主事と25歳の若手スタッフでした。期間中、食事を共にしたり、観光やYMCA見学などに同行したりすることで親しくなることができました。交流とは、詰まるところ、人と人との関係作りであることを再確認した次第です。

ワイズにおいてもIBCやDBCという関係が作られています。これもやはり、相互に訪問したり会議で顔を合わせることを重ねることで、交流が実体化し

ていくのだと思います。グランパスクラブにおいては昨年の韓国訪問、今年の京都・東稜クラブ10周年の訪問など、着々とフェイス トゥ フェイスの交流を重ねていることは喜ばしいことです。

交流を絶やさず、常に関係をアップデートしておくことをYMCAもワイズも心掛けるようにしなければと感じた今回の受け入れでした。

## その他

### 1. 今月の誕生日

happy birthday

三井 秀和 ( 8日)

坂野 清治 (10日)

congratulation!

### 2. 例会等出席状況

No.	氏名	1 / 14 第一例会	1 / 28 第二例会	1 / 18 EMC セミ	1 / 18 爺ヶ岳 sk
1	阿部 一雄	○			
2	荒川 恭次	○			○
3	坂口 功祐				△
4	佐藤 壽晃				
5	信田伊知郎				△
6	下村 明子				
7	高田 士嗣	○			○
8	坂本 清則		○		
9	服部 庄三	○	○	○	
10	早川 政人	○	○	○	
11	坂野 清治	○	○		○
12	松原 誠	○	○		○
13	三井 秀和				
14	吉田 一誠	○	○		○
15					
16					
	計	8	6	2	5



## 名古屋グランパスワイズメンズクラブ 2014 年 2 月第 1 例会

### 中部部長公式訪問卓話

2014 年 2 月 4 日(火) 19:00~21:00 名古屋 YMCA

**講 師**：平口 哲夫（中部部長、金沢犀川クラブ）

**演 題**：「浦上キリシタン流配事件と金沢市卯辰山出土人骨」

**概 要**：1865(慶応元)年に肥前国浦上村の隠れキリシタンが、長崎の大浦に建立された天主堂を訪れた際、フランス人神父に信徒であることを告白した。この隠れキリシタン発見の感動的ニュースはすぐにヨーロッパに伝えられ、神父と隠れキリシタンとの間に交流がもたれるようになったが、1867(慶応 3)年、長崎奉行は浦上信徒の主だった者 68 名を捕縛した(浦上四番崩れ)。江戸幕府のキリスト教禁止政策を引き継いだ明治政府は、浦上信徒を諸藩に流配することにし、まず 1868(慶応 4)年に 114 名を山口・津和・福山の 3 藩に送り(第一次流配)、ついで 1869(明治 2)年から翌年にかけて約 3,300 名を富山以西の諸藩に送った(第二次流配)。加賀藩には 566 人が送られ、うち 50 人が大聖寺藩にお預けとなり、残り 516 人が金沢卯辰山の一角に収容された。卯辰山の収容所では、1873(明治 6)年、キリシタン禁制が解かれるまでに、一説によれば死亡者 109 人、流刑中に生まれた者 44 人、改宗して帰郷した者 36 人を数える。この死亡者の埋葬地については確実な場所が分からなかったが、1998 年(平成 10)年 10 月 15 日、金沢市御所町地内の卯辰トンネル建設工事現場で正体不明の人骨が多数発見されたことから、この場所が流配者の墓地である可能性が高まった。石川県教育委員会文化財課による発掘調査の結果、出土した木棺の釘の形態や放射性炭素年代測定により、江戸時代後期から明治時代初めに土葬された可能性が大きいと推測されたものの、身元が判明しないため、建設省北陸地方建設局などによって無縁仏として火葬されそうになった。しかし、「信教の自由」という点で重要な歴史的事件に関わる可能性の高い人骨であり、また北陸における明治初期の人骨資料としても人類学的に貴重な資料であることから保存運動に筆者も協力し、国立科学博物館で保管してもらうことにした。

**プロフィール**：ひらぐち・てつお。1945 年 4 月、福井県敦賀市生まれの金沢育ち。1969 年東北大学文学部史学科(考古学専攻)卒業。1974 年 3 月、東北大学文学部大学院文学研究科博士課程(考古学専攻)単位取得満期退学、同年 4 月金沢医科大学教養部講師に就任。2011 年 3 月金沢医科大学一般教育機構特任教授を定年退職、同年 4 月同大学名誉教授。現在、金沢医科大学看護学部と金沢学院大学文学部の非常勤講師。環境・民族考古学専攻。主要著書：『図説発掘が語る日本史 東海・北陸編』(新人物往来社、1986、共著)、『日本海ソボジウム 味噌・醤油・酒の来た道』(小学館、1987、共著)、『考古科学的研究法から見た 木の文化・骨の文化』(カバプロ、2003、共著)、『若狭の海とグワ』(敦賀短期大学地域交流センター、2003、共著)、『縄文時代の考古学 4 人と動物との関わりあい—食料資源と生業圏—』(同成社、2010、共著)。日本ヒトヅル(鯨類学)研究会石川県支部長、日本人類学会評議員、日本考古学協会会員、日本文化財科学会会員、石川考古学研究会顧問。石川県埋蔵文化財センター評議員、石川県自然史センター監事、世界連邦運動協会執行理事・石川県連合会理事長。金沢 YMCA 理事・常務委員、金沢犀川ワイズメンズクラブ 広報・ブリテン委員長、日本基督教団若草教会会員。